



# 3年学年だより

発行日：令和3年6月30日（水）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：遠藤 広樹 NO. 3

## 自分の居場所について

校長代理 富樫哲一

6月も終わりに近づきました。部活動によっては既に市の総合体育大会が始まっていて、特に運動部に所属している皆さんは週末の土曜日、日曜日の試合のことを考えてワクワクしたりドキドキしたりする毎日なのではないでしょうか。3年生の皆さんにとっては、全国までつながる最後の大会となるのでその感情の高ぶりも一段と大きいことでしょう。

先日、ある部活動の応援にいきました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、マスク着用かつ大声での応援の禁止、手指の消毒、人数の制限がされている等、例年とは違った市の総合体育大会となっていました。しかし、保護者の方に応援してもらうことができるので、特に3年生は充実した様子で試合に臨んでいるように見えました。

当日、試合の応援をしながら改めて考えたことがありました。それは「自分の居場所」についてです。

皆さんは、家族の一員であり、学校・クラスの一員でもあり、ある友達グループの一員でもあります。また、人によっては、運動部や文化部、校外で行われるクラブ活動というグループの一員でもあり、塾や習いごとのグループの一員でもある人もいます。多くの人間が存在する社会で生活をするということは、本人が望む望まないにかかわらず、それぞれのグループの一員として複数の「自分の居場所」をもつこととなります。

皆さんはすべてのグループにおける「自分」が快適と感じていますか。すべて快適と感じている幸せな人も中にはいるかもしれませんが、多くの方は「このグループの自分はちょっと息苦しいな」「このグループは自分と合わないな」と感じることはないでしょうか。でもそれはいたって当然のことだと思います。それは、それぞれのグループにはグループの常識（価値観）やルールがあり、その従うべきルールやもつことを求められる常識（価値観）が自分と合わないことから息苦しさや不満を感じるのです。

「自分の居場所」は多ければ多いほど安心して豊かに人生を送ることができると思います。ある一つのグループの「自分の居場所」が辛く、息苦しいものであっても、他のグループの「自分の居場所」は楽しくほっとできるものかもしれません。幸いなことに社会には本当に多くのグループがあり、そこで「自分の居場所」をつくることのできる可能性があります。さらに言えば、皆さんはまだ中学生。時間的にも多くの「自分の居場所」をつくることのできる可能性が高いのです。

ここで皆さんに伝えたいのは、たとえ、あるグループでうまく「自分の居場所」を見つけられなくても、それはあなたがダメだということでは決してないということです。たった一つのグループに合わないとしても、他のグループすべても同様に、あなたを受け入れてくれないということではありません。ある一つのグループの価値観やルールが自分に合わないだけなのです。

皆さんには、南高等学校、南高等学校附属中学校で生活する6年間で、まだ出会ってはいないけれど、静かに皆さんと会うのを楽しみにしている、新しい「自分の居場所」を積極的に探しにいてもらいたいと思います。もちろん、学校としてもクラスや部活動等が安心できる皆さんの居場所の一つと思ってもらえるようにしっかりと取り組んでいきます。

### \*本校生徒がご利用いただける「給付制度」および「統合賠償責任保険」のご紹介\*

【日本スポーツ振興センター災害共済給付制度】※掛金年間460円：学校納入金にて徴収済みです。

授業や部活動、登下校中などの学校管理下で起きた傷病が対象となる制度です。保険診療内にかかった医療費と通院に伴う費用（医療費の1割）が給付されます。詳細は保健室にお問い合わせください。

【日新火災海上保険株式会社 統合賠償責任保険】※掛金年間265円：部活動振興費より徴収済みです。

授業や部活動、校外学習などの学校管理下で、他の生徒または第三者に損害をあたえた場合や、生徒が偶発の事故により学校所有物を損壊させた場合などに補償されます。詳細は担任の先生にお問い合わせください。

# 体育祭 開催しました！

6月1日（火）の午前中、天気にも恵まれ中学生最後の体育祭を行うことができました。自分たちが主となり作った体育祭はいかがでしたか。3年生のみなさんが1・2年生をリードして頑張っている姿がとても頼もしかったです。飛びつき綱引きや色別対抗リレー、クラス対抗リレー、玉入れさせない、障害物競争など、様々な種目で熱い戦いが繰り広げられていましたね。体育祭実行委員さん、お疲れさまでした！



# 芸術鑑賞会

6月11日（金）の午後には、合唱コンクールの代替行事の芸術鑑賞会が行われました。南高校卒業生の南雲玲生さんをお招きし、ゲーム制作の裏側や学生時代に取り組んでいたことなどをお話いただきました。南雲さんはこれまで音楽ゲームや100個以上のアプリを開発されてきました。「高校生のころ人前で話すのが苦手だった」という経験からできた大人気アプリなど、自身の体験からいろいろなアイデアを作り出している南雲さんのお話を、目を輝かせながら聞いているみなさんが印象的でした。生徒からの質問に答えていただきながら「興味のある事柄にどんどんチャレンジして！好きなことは全部する！」「いつもと違うことをしてみると新しい発見があるかも」というメッセージもいただきました。午前中から準備等頑張ってくれた文化委員さん、本当にお疲れさまでした。



## 卒業生講話の感想

5月に行われた卒業生講話。先輩方へのお礼のお手紙の一部を紹介します。

今まで私は正直「EGGの授業がどれくらい身についているのだろう。」とやる意味の部分でやる気をなくしていましたが、今回のお話を聞いて、論理力が大学で重要になり、それをEGGやT&Aで身につけることができると知って、もう少し頑張ろうと思えました。また勉強はやらないといけないからするのではなく、「自分のためにする」という意識が大切なのだと思います。勉強面でかなりやる気がなくなっていたので、初心に戻ってやっていきたいと思います。大学受験というと自分一人では分からないことが多かったので、詳しく知られて良かったです。職業について自分で調べ、なりたい方向を決めていきたいです。

私は今夢中になれるものがあるがその方面の仕事に興味があるが不安を感じていたけれど、新井さんの話をきいて、続けることが大切だと思えた。実際にやってみる、行ってみるという経験が大切だという話もきいて、卒論等にも活かしたいと思った。

“もう1歩進んでみる”というアドバイスの通り、今のように趣味で終わるのではなく、その道について、どのような大学が向いているのか、何の勉強をすれば良いのか、そのために今何ができるのか、調べたり、考えたりしていきたいと思う。また、お話をきいて、自分自身が大学のことをあまり知らなかったり、知らない仕事、職業がたくさんあったりすることに気付かされ、これから進路についてより深く考えていくことになると思うから自分の周りの小さな世界だけで知った気にならないでより世界を知り、学んでいきたいと思った。

大学のある施設や、校内の風景が見られて、実際に見学してみたいと思いました。「データサイエンス」学部は知らなかったのですが、今回の話を聞いて、面白かったです。この「データサイエンス」は今の時代だからこそ、できたものだと思います。ただデータを集めて考えるだけでなく、医療など、他の分野にも活用できるので、もっと表にでていい分野だと思いました。卒業論文で、研究テーマに関するグラフや表などを見て自分の考えを述べるのがこれから出てくると思うので、その時に「データをまとめて考える」という面で活用していきたいです。私自身、将来やりたいことや進路のことは考えるけれど、実際に何をやっていいのかわからなくて不安だったので、まずは自分の興味のあること、好きなことについて勉強したり、行動にうつしたりしようと思いました。中学・高校で、いまのうちに色々なことを経験して大学受験に向けて学校生活を送りたいです。

## 国際平和スピーチコンテストに参加します

よこはま子ども国際平和スピーチコンテストの校内予選会が行われました。本選参加者は「よこはま子ども国際平和プログラム子ども実行委員」として委嘱され、ユニセフ協会の諸活動への協力、国際平和募金のチラシやポスターの作成、横浜市の児童生徒への呼びかけ、所属校における募金活動などをリードします。地区予選会に参加する学校代表1名を決めるため、3学年代表として3名が参加しました。みなさん素晴らしいスピーチでした。選考の結果、4組の■■■■さんが学校代表に決定しました。7月に行われる地区予選会でも素晴らしいスピーチを披露してください。

